

## カづけてくださる証し

わたしたちは、教皇フランシスを日本に迎えようとしています。三年前に出版された教皇様の本があります。『神の名はいつくしみ』(日本未発売)という本です。これはイタリア人新聞記者アンドレア・トルニエリが教皇フランシスコに「いつくしみ」をテーマにインタビューしたものを集めた本です。その中で、教皇様はこう書いていらっしゃいます。「人類はいつくしみを必要としています。なぜなら人類は深く傷ついているからです。人類はその傷をどう治したらいいのか分かりませんし、むしろもう治ることはないと思ってしまうています。社会的な病だけが問題なのではありません。貧しさによって傷つけられている人も、社会的に疎外されて傷ついた人もいます。この二十一世紀には、様々なかたちで奴隷のようにされて、傷ついている人もいます。また『すべてがどうでもよい』という相対主義も多くの人々を傷つけてしまっています。」

確かに、人類はいつくしみを必要としています。そして、わたしたちは、神様の特徴であるこの「いつくしみ」を具体的なかたちで表すよう呼ばれているのです。教皇フランシスコは、一つの具体的例をもって、それを説明しています。彼自身が目撃したエピソードです。「いつくしみの例を見てみましょう。これは一見小さなことだと思うかもしれませんが、神の目から見たら偉大なことです。多くの母親や妻たちが、刑務所にいる息子や夫に食事や贈り物を差し入れるために、土曜日や日曜日に刑務所の前で長い列を作っています。彼女たちは刑務所を訪れる時には検査を通らなければならず、恥ずかしい思いをします。しかし彼女たちは過ちを犯した自分の夫のことを恥とは思わず、訪問し続けるのです。これはちっぽけな行いに見えるかもしれませんが、神の目には偉大なことです。これこそいつくしみを示す行動なのです。」

教皇フランシスコのことばと行動は、わたしたちにとって大きな励ましになります。



## 福音宣教特別月間

— 2019年10月27日 —

### わたしたち皆が福音宣教者

日本の司教団は、「福音宣教のための特別月間」に向けて呼びかけ文を発表しました。その中に、こう言われています。

「福音宣教の第一の動機、それはわたしたちが受けているイエスからの愛です。イエスの愛を受け、その救いの喜びに生かされるために、わたしたちは、秘跡、とくにミサにおけるイエスとの人格的な出会いの恵みを大切にしましょう。また、聖書通読、みことばの分かち合い、黙想会、聖体礼拝、聖体訪問なども、そのための有益な助けです。」

さらに、イエスとの人格的な出会いの喜びを、日常生活の中で神と隣人への愛として広げていくために、わたしたちは出向いて社会の福音化に奉仕します。今日の日本の文化や社会の中には、すでに福音的な芽生えもありますが、多くの人々を弱い立場に追いやり、抑圧、差別している現実もあります。キリストの力でこの芽生えを育て、全ての人を大切にする社会と文化に変革する福音の担い手になりましょう。」



## 大阪教区の統計を考える

年度	司教	教区司祭		修・宣司祭		修道者	洗礼		信者総数		
		日本	外国	日本	外国		幼	成	男性	女性	合計
2000	3	55	1	40	90	726	419	496	22,324	32,822	55,146
2001	3	56	1	41	85	730	379	430	22,016	33,141	55,157
2002	3	56	2	40	85	712	361	414	21,779	33,014	54,793
2003	3	55	3	33	84	709	336	443	21,845	32,957	54,802
2004	3	53	3	33	75	711	302	455	21,667	32,912	54,579
2005	3	53	3	34	73	697	327	408	21,642	32,724	54,366
2006	3	48	3	31	72	699	288	427	21,728	32,809	54,537
2007	3	45	4	29	70	704	294	405	21,412	31,447	52,859
2008	3	45	4	34	67	682	262	391	21,444	31,961	53,405
2009	3	43	4	35	66	668	224	350	22,333	31,565	53,898
2010	3	46	3	37	71	672	242	343	21,109	31,535	52,644
2011	3	44	3	37	66	664	267	342	21,054	31,605	52,659
2012	3	41	5	41	67	659	221	307	20,627	30,934	51,561
2013	3	45	3	36	68	652	232	299	20,461	30,824	51,285
2014	3	46	3	35	75	656	204	312	20,459	30,757	51,216
2015	3	47	3	35	69	649	228	291	20,075	30,315	50,390
2016	2	43	6	34	70	632	222	295	19,636	29,719	49,355
2017	2	42	8	38	74	603	229	287	19,458	29,536	48,994
2018	4	40	8	37	70	590	219	306	19,378	29,275	48,653

- ✓ この統計には、大阪教区にいらっしゃる外国から来られた信徒の数は入っていません。
- ✓ 年齢を考えると厳しい統計になります、特に司祭や修道者の場合。

## 祈りと振り返り

「あなたがたは、私の証人となる」(使徒たちの宣教1, 8)

天の父よ、  
このイエスのことばを思いめぐらすときに、  
大事なことに気づきます。  
イエスの証人になるために、  
イエスとの出会いの中で与えられる恵みを  
しっかりと心に受け止める必要があることです。  
父よ、わたしたち一人ひとりと教会共同体が、  
イエスのことばに導かれて、  
また、イエスのいのちに生かされて  
歩むことができるように  
聖霊を注いでください。  
イエスの証人になる恵みを心から祈ります。  
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

福音を他の人々と分かち合おうとする人は、福音によってまず自分自身が変わられます。自分の生き方の方向づけが正され、イエスとの出会いが深まり、「信仰をもってよかった」という実感は確かなものになります。そして、福音に初めて触れる人の心に新しい光が生まれてくるのを見て、喜びが与えられます。

福音を証し伝えようとする教会は、それによって自分のルーツである福音に導かれます。福音から離れてしまっている部分があります。人々との出会いのうちに教会の姿勢が問われます。「出向いて行く」ときこそ、教会は新たにされます。

そして、社会に当てはめて考えると、福音的な変化とは、私たちの社会が少しでも天の父が望んでおられる社会に近づくことを意味しています。

福音宣教には、個人的、教会的、社会的、という三つの側面があります。ともに福音化されます。